

心理実習における公認心理師カリキュラムとキャリア教育についての 探索的検討

鍋田 智 広

九州女子大学 人間科学部 心理・文化学科 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

(2024年10月23日受付、2024年12月12日受理)

要 旨

九州女子大学は令和2年度から公認心理師カリキュラムを開始し令和3年4月から心理実習を実施している。心理実習は、学生が学外施設に赴いて、心理に関する業務や専門家の倫理、責任等を学ぶ公認心理師カリキュラムのひとつの科目である。公認心理師カリキュラムは、カリキュラム全体として公認心理師の育成を目的とするが、その目的のもとで心理実習がどのように位置づけられているのかは従来の研究からは不明である。本研究では、心理実習を学ぶにあたって他のどの科目が役に立ったか、及び心理実習が将来どのように役立つと思うのかを心理実習を受講する2年生から4年生までに記述回答してもらい量的分析を行った。その結果、2年生と3年生とでは、心理実習に役立ったとする科目数に変化がないこと、心理職を目指す学生には心理学発展科目が将来に重要であると認識される一方で、一般企業等への就職を目指す学生には心理学の基礎的科目が重要であると認識されていた。これらの結果は、同じ心理実習であっても学生の希望する進路によって異なる捉え方、学びがなされていることを示唆している。

心理実習の他の科目との関わり

公認心理師カリキュラムでの心理実習の位置づけ 公認心理師カリキュラムとは公認心理師法で規定された心理に関する支援やその他の業務を適切に行う心理専門家の養成を目的とし、主務大臣が指定した修めべき心理学等の科目である。公認心理師法 第2条には、公認心理師が行う業務には以下が挙げられる。心理に関する支援を要する者に対して心理状態の観察をし、結果を分析する、心理に関する支援を要する者（加えて心理に関する支援を要する者の関係者）に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと、心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行うこと。公認心理師カリキュラムが心理専門家養成を目的とする観点から、鶴（2017）は、公認心理師カリキュラムに求められることとして次の4点を挙げている：1）職責と義務、倫理の教育、2）コミュニケーション力と連携・協調の教育、3）国家試験対策とカリキュラムの評価、4）地域社会に向けての活動と自らの研鑽の育成。ここに挙げられている4点のうち、3点は学習内容についてのことであり、公認心理師カリキュラムのなかで適切な指導の中で教育していくことが求められる。これらを公認心理師カリキュラムのなかで目指すには、講義による専門知識の習得だけでなく、実習・演習を組み合わせた教育が重要である。例えば、目標として挙げられている、職責とは職務上の責任であるが、そのひとつには公認心理師法で強調されている秘密保護義務が挙げられる。秘密保護義務の学習においては、もちろん講義等、座学で学ぶことが必要であるが、それだけでなく職場ではどのように実現されているのかを、その現場での実践から学ぶことが不可欠であろう。また、施設や領域ごとに倫理、責任のありかたは異なっている。領域、施設ごとに異なった形で存在している倫理や責任がどのように実践されているかを学生は講義での理解と結びつけて学ぶことが必要となる。

カリキュラム全体としての評価の必要性 公認心理師カリキュラムは、それまで大学院のみで行われていた専門家の教育を学部にもまで広げ、学部と大学院を合わせた6年間で体系的な専門教育をすることが求められている。すなわち、公認心理師カリキュラムでは臨床心理学の実践知や専門知のみならず、より基礎的な心理学を学び、専門の涵養を促すための体系的教育が目指されていると考えられる。公認心理師カリキュラム等検討会（2017）の報告書によると、公認心理師カリキュラムに定められる25科目は、A心理学基礎科目、B心理学発展科目、C実践演習科目に分類している。A心理学基礎科目とB心理学発展科目は講義科目である。

表1 公認心理師カリキュラム等検討会報告書（平成29年）での大学における必要な科目

A 心理学基礎科目
①公認心理師の職責, ②心理学概論, ③臨床心理学概論, ④心理学研究法, ⑤心理学統計法, ⑥心理学実験
B 心理学発展科目
(基礎心理学) ⑦知覚・認知心理学, ⑧学習・言語心理学, ⑨感情・人格心理学, ⑩神経・生理心理学, ⑪社会・集団・家族心理学, ⑫発達心理学, ⑬障害者(児)心理学, ⑭心理的アセスメント, ⑮心理学的支援法
(実践心理学) ⑯健康・医療心理学, ⑰福祉心理学, ⑱教育・学校心理学, ⑲司法・犯罪心理学, ⑳産業・組織心理学
(心理学関連科目) ㉑人体の構造と機能及びその疾病, ㉒精神疾患とその治療, ㉓関係行政論
C 実践演習科目
㉔心理演習, ㉕心理実習(80時間以上)

A 心理学基礎科目は、①公認心理師の職責から⑥心理学実験までの6科目、B 心理学発展科目は、さらに基礎心理学、実践心理学、心理学関連科目に分類される。基礎心理学は⑦知覚・認知心理学から⑮心理学的支援法までの9科目、実践心理学は、⑯健康・医療心理学から⑳産業・労働心理学までの5科目、心理学関連科目は、㉑人体の構造と機能及び疾病から㉓関係行政論までの3科目である。C 実践演習科目は、心理実習と心理演習の2科目である。このように公認心理師カリキュラムは、心理学基礎科目から、実践演習科目まで基礎から応用・実践に近いものまで内容的な観点から分類されている。こうした分類を設けた背景には、公認心理師カリキュラムが、卒業時到達目標を達成するようにカリキュラム、教育全体をデザインする Outcome-based education の指針に沿って策定されたことがある。ただし、これらの科目を学部カリキュラムに組み込み、どのように学生に修得させるのかについては各大学にゆだねられている。したがって、実際に大学の教育現場において、公認心理師カリキュラムが、公認心理師の業を実践する能力を育成できているのかを評価することは重要な課題であるといえる。この点については、実際に公認心理師カリキュラムを実施している大学において、いくつか関連する調査研究が報告されている。例えば、櫻井・岩崎・渡邊(2021)は、本務校の心理実習の運用、評価方法等を詳しく説明した後に、次のように指摘した。すなわち、心理実習の科目ひとつで、心理実習の施設実習に必要なスキル・知識を獲得させることは現実的ではなく、関連する他の科目との対応づけをしておくことが重要である。特に心理演習は心理実習とかかわる部分は多く、事前に受講しておくような仕組みが有効であると述べた。また、一方で、心理支援とアセスメントについては学んだ内容を心理実習で活用できるような工夫を提案している。堀・田中・願興寺ら(2024)は、公認心理師の学部生受講者を対象に半構造化面接を行い、その内容を M-GTA で分析した。その結果、心理実習を通して対人支援の基本的態度から、心理職としての役割や視点の学びが得られること、また対人支援の基本的態度から、学んだ知識が実際に現場で活用されることを体験的に学び、これらの学びが自分自身のキャリア意識などに発展していくことが示唆された。ほかにも、実習の教育実践を記述し学生の学びを考察した永田ら(2022)や心理実習に対する学生のモチベーションを調べた永田・林(2022)などの研究が報告されている。これらの研究は、心理実習における経験からの学びを対象としている。確かに、研究の目的が心理実習の学びの内容の検討であるため、学生の体験に注目するのはスタンダードな観点であるとはいえるものの、公認心理師カリキュラム全体の学びにおいて心理実習がどう位置づけられているかについては、これらの従来の研究成果から考察することはできない。上述した通り、公認心理師カリキュラムには25科目が定められており、学生はこれらをすべて履修・修得する。心理実習は心理演習とならんで実践演習科目に分類

されており、講義科目とは区別されているものの、心理実習が他の講義科目とどのように関わって学生の学びに資するのかを検討することは重要であろう。実際に、多くの大学では、心理実習に先立って学んでおくべき内容を指定するといった事前受講科目を設けるといった工夫が実施されている（日本公認心理師養成機関連盟, 2022）。

キャリア意識と心理実習

公認心理師カリキュラムは心理支援の専門家を養成することを目的としており、そこでは知識、技能だけでなく専門職としての態度を育成することが目指される。特に、心理実習では、学生たちが施設に赴きどのように心理専門職が働き、公認心理師としての業務を通じてなにを目指しているのか職業的目的を理解する機会となる。こうした機会は、学生たち自身が公認心理師を目指して大学院進学などの進路を選ぶかどうかを考えるきっかけになると考えられる。心理実習が、学生たちのキャリア意識を高めることは、堀・田中・願興寺（2024）の行った半構造化面接のなかでも示された。この報告では、心理実習が進路の再検討のきっかけになったことや、心理職になりたいという意識をより強めたといった内容が語られている。心理実習は学生たちのキャリア意識に強い影響を与えると考えられるが、公認心理師カリキュラムはその全体として心理専門職の養成を目指しており、カリキュラム全体としてどのようにキャリア意識が促進されるのかを検討することは重要であると考えられる。

本研究の目的

本研究では、心理実習の学びにおける他の科目との関連性について学生の認識を探索的に検討した。すなわち、心理実習を受講し施設実習に参加している学生2年生から4年生に対して、心理実習での施設実習において役に立ったと感じた科目及びその理由を回答させた。加えて、本研究では、心理実習のキャリア意識への影響を検討した。心理実習は心理職が働く現場を見学するという機会であり実習生は自分の将来を思い描くと考えられる。また、希望進路の違いにも着目し、心理専門職と一般の就職を希望する学生とで、心理実習をどのようにとらえているかを検討した。特に、これらの点について、学生の心理実習についての感想・印象、および心理実習に役立ったと考える科目の観点からとらえ、探索的に検討した。

方法

参加者と調査時期 九州女子大学で心理実習を受講する学生に向けて、学生が普段利用するウェブシステムに通知を出して心理実習についての調査と伝え、回答を募った。参加者は66名であった（2年生28名、3年生24名、4年生14名）。調査は2023年12月に実施した。

大学での心理実習 九州女子大学では、心理実習は2年次開講科目として位置づけられており、その後3年生、4年生まで受講する。心理実習を2年次から開始するためには、1年次に健康・医療心理学を履修・修得する等の基準をクリアする必要がある。実習先の施設は異なるものの受講学生全員が保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働の各領域で、分散して学外実習を行い、全員が5領域のすべての実習に参加する。各施設での実習は1日で終わるものであった。施設実習は2年次終了時点で40時間以上、4年次終了時点で60時間以上を目安に実施し、事前事後指導を含めて80時間以上を実施する。各施設の実習の前には施設・機関概要と実習計画書を作成・提出し、各施設の実習終了後には実習日誌を作成して提出した。2年次には施設実習の開始前に、事前指導として専門家の講話や、事前学習の仕方や日誌の作成の仕方の講義、施設の業務内容のビデオ学習とグループディスカッションと発表などを行い、3・4年次には事後指導として、各施設の振り返り、領域ごとに、個人及びグループディスカッションを通じて行った。

保健医療領域の実習では、精神科医療施設における病棟見学、実習指導者から実際の臨床現場での心理職の役割や支援のあり方、多職種連携で重視されるコミュニケーションなどについて説明を受けた。教育領域の実習では普通科の高等学校や特別支援学校において、施設見学だけでなくチーム学校として支援の観点から教育内容を理解するためにスクールカウンセラーや教務担当の教諭から職務内容についての講義を受けた。福祉領域では就労支援や児童福祉施設等で、施設見学や業務内容の概要に加えて、支援のチームアプローチや施設内の連絡体制などについて講義を受けた。司法・犯罪領域では、矯正施設における施設見学、実習指導者から施設の地域とのかかわりや社会的役割や、施設の対象者の心理的な特徴を理解するための講義

を受けた。産業・労働領域では、外部 EAP の専門機関での実習を通して、労働者をめぐるメンタルヘルス問題への関わりとして相談の具体的な方法や心理支援、復職支援、メンタルヘルス研修等について見学実習を通じて学んだ。

調査方法 調査回答に同意した学生に対して GoogleForm の URL を伝えて調査フォームに回答してもらった。調査に先立って、学生達には自分が履修した科目について回答してもらうため、履修した科目とその成績が確認できるように準備して臨むように伝えた。回答はおよそ 15 分程度であった。

調査項目 質問項目は以下の 6 点から構成され、回答者は自由に記入した。1) あなたは将来どのような進路、職業やお仕事をしたいとお考えですか。わかる範囲で結構ですので教えてください。2) この授業（心理実習）はどれだけあなたの学習と将来にとって重要だと思いますか。3) 以上のように考える理由を教えてください。4) この授業（心理実習）を実施するうえでこれまでに受けたどの授業が役に立ったと思いますか。具体的な授業名をあげてください。複数あげていただいても結構です。5) そう考える理由を教えてください。6) この授業（心理実習）を受けてよかった点と今後改善して欲しい点（授業内容）があれば記入してください。

倫理的配慮 以下について口頭および書面で説明した。すなわち、調査は任意であり、協力しないことによる不利益はないこと、調査で得られた情報は研究のために使用されることがあること、研究が公表される場合でも個人が特定される情報は一切出さないこと、研究以外の用途では調査結果は使用されないこと。

結果

学年と進路希望の関わり

学年と進路希望についてクロス表にまとめた（表 2）。進路希望について無回答は 8 件であった。これらを除いて分析を行った。学年と進路希望を要因とする 2 要因のカイ二乗検定を行った結果、有意であった（ $\chi^2(4) = 15.67, p = .003$ ）。残差分析の結果、心理職または進学希望者は 2 年生で多く（ $p = .02$ ）、一般企業等への就職希望者は 4 年生で多く（ $p = .01$ ）、2 年生で少なかった（ $p < .001$ ）。

表 2 学年と進路の希望の回答者数

変 数	進路(1心理職または進学2一般3未定)				
	出 現 値	1	2	3	合 計
学 年	2	12	3	9	24
	3	4	11	5	20
	4	3	10	1	14
	合 計	19	24	15	58

心理実習に役立った科目について 心理実習に役立った科目として挙げた科目数を従属変数とし、学年と進路希望の影響を検討した。分析に先立ち、進路希望に無回答だった 8 件を除外した。また、4 年生では進路希望未定と回答した者が 1 名のみで平均を算出できなかったため 4 年生のデータを除外した。選ばれた科目数を従属変数とし、進路希望と学年を参加者間要因とする 2 要因分散分析を行った。その結果、学年の主効果（ $F(1, 38) = 0.30, p = .59$ ）、進路希望の主効果（ $F(2, 38) = 0.05, p = .95$ ）、交互作用（ $F_s < 0.63, p > .43$ ）は有意でなかった。

心理実習が将来に役立つという認識について 参加者ごとに「この授業はどれだけあなたの学習と将来にとって重要だと思いますか」「以上のように考える理由を教えてください」という設問の記述回答の文章を合成し、文字数を従属変数とした（以降、実習の将来への重要性の記述とする）。実習の将来への重要性の学年と進路希望からの影響を検討した。以上の分析と同様に、進路希望に無回答だった 8 件を除外した。また、4 年生では進路希望未定と回答した者が 1 名のみで平均を算出できなかったため 4 年生のデータを除外した。実習の将来への重要性の記述を従属変数とし、進路希望と学年を参加者間要因とする 2 要因分散分析を行った。その結果、進路希望の主効果（ $F(2, 38) = 2.37, p = .10$ ）、学年の主効果（ $F(1, 38) = 0.47, p = .50$ ）、交互作用（ $F(2, 38) = 0.83, p = .45$ ）は有意でなかった。進路希望については有意傾向にとどまっ

たものの、参考として多重比較を行った。その結果、心理職または大学院進学を目指すとした回答者は、一般企業等に就職するとした回答者よりも実習の将来への重要性の記述が少ない傾向であった ($t(38) = 2.00, p = .05$)。同様に、未定の回答者に比べて実習の将来への重要性の記述の文字数は少ない傾向であった ($t(38) = 1.70, p = .09$)。

科目の種類の関わり

参加者ごとに、心理実習を受けるのに役立った科目の数を数え、科目の種類ごとに平均を求めた (表3)。

表3 科目の種類ごとの役立った科目数の平均と標準偏差

科目の種類	平均値	標準偏差
A	0.58	0.86
B	2.30	2.22
B-1	1.44	1.44
B-2	0.73	0.95
B-3	0.14	0.46
C	0.18	0.39

また、「この授業を実施するうえでこれまでに受けたどの授業が役に立ったと思いますか。具体的な授業名をあげてください。複数あげていただいても結構です。」「そう考える理由を教えてください」という設問の記述回答の文章を合成し、文字数を変数とした (以降、他科目が実習に役立った理由の記述とする)。そこで、他科目が実習に役立った理由の記述と、実習の将来への重要性の記述、および心理実習に役立った科目として挙げられた種類ごとの科目数を変数として相関分析を行った (表4)。

表4 科目の種類および他科目が実習に役立った理由の記述の文字数と実習の将来への重要性の記述の文字数の相関

	1	2	3	4	5				
1) A 心理学基礎科目	1.000								
2) B 心理学発展科目	.496	**	1.000						
3) C 実践演習科目	.050	.042	1.000						
4) D その他の科目	.403	**	.231	+	.009	1.000			
5) 文字数（将来）	.107	.351	**	.351	**	.174	1.000		
6) 文字数（役立つ科目）	.170	.462	**	.217	+	.309	*	.458	**

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

その結果、科目の種類同士の相関については、A心理学基礎科目とB心理学発展科目に有意な正の相関が認められた。他科目が実習に役立った理由の記述の文字数は、B心理学発展科目とDその他の科目と有意な正の相関が認められた。実習の将来への重要性の記述の文字数は、B心理学発展科目とC実践演習科目と有意な正の相関が認められた。また、他科目が実習に役立った理由の記述の文字数と実習の将来への重要性の記述の文字数には有意な正の相関が認められた。

相関分析の結果、他科目が実習に役立った理由の記述と、実習の将来への重要性の記述のいずれもがB心理学発展科目と関連していることが示された。そこで、これらを目的変数とし、B科目 (心理学発展科目) の3種類B1 (基礎心理学)、B2 (実践心理学)、B3 (心理学関連科目) を説明変数とした重回帰分析を行った。まず、他科目が実習に役立った理由の記述を目的変数とした分析については、B2 (実践心理学) の効果が有意であった ($R^2 = .16, b = 19.12, SE = 7.54, \beta = .34, t(62) = 2.57, p = .01$)。次に実習の将来への重要性の記述を目的変数とした分析については、B1とB3の効果が有意であった ($R^2 = .16$; B1: $b = 13.22, SE = 5.45, \beta = .29, t(62) = 2.43, p = .02$, B3: $b = 43.38, SE = 16.59, \beta = .30, t(62) = 2.56, p = .01$)。

考察

本研究では、心理実習の学びにおける他の科目との関連性について学生の認識を探索的に検討した。すなわち、心理実習を受講し施設実習に参加している学生2年生から4年生に対して、心理実習での施設実習において役に立ったと感じた科目及びその理由を回答させた。心理実習に役立つと認識される授業については、進路希望や学年による違いは認められなかった。すなわち、心理職を目指して大学院進学を希望する学生と、就職を希望する学生、まだわからないといった学生との間で、心理実習に役立つと考える科目数に違いはなかった。また、2年生に比べて3年生の方が多くの科目を挙げたといった結果は認められなかった。本学では、2年次から施設見学の実習を始める。既に2年生時に多くの科目が心理実習に関わっているという認識を持っている結果は、早い段階で現場や実践と心理学の講義科目との関わりを感じることができていることを示しているといえる。また、心理実習に役立つと考える記述の量を目的変数とした重回帰分析では、B2（実践心理学）の科目数が有意に影響を与えていた。B2（実践心理学）は健康・医療心理学や福祉心理学、教育・学校心理学といった現場実践への応用を意識した科目である。心理実習の現場の指導者の話のなかに、授業で聞いた内容が出てきたといった回答が見られており、B2（実践心理学）の授業は、実習との関わりが強く感じられ、役立つといった認識につながったと考えられる。

本研究では、心理実習のキャリア意識への影響を検討した。基礎的情報として学年ごとの希望進路を調べた結果、心理職を希望する学生は2年生でもっとも多く、3年生、4年生になるにつれて一般企業への就職を希望する学生が増加した。これは、心理学の学習を進めるなかで自分の心理専門職としての適性を振り返った結果と考えられるが、その一方で3年生、4年生になりキャリア教育を受ける機会も増えるということが理由として挙げられるかもしれない。実習の将来への重要性の記述を目的変数とした重回帰分析では、B1（基礎心理学）とB3（心理学関連科目）の科目数が有意に影響を与えていた。B1（基礎心理学）には心理的アセスメント、心理学的支援法といった臨床領域の基礎的科目だけでなく、知覚・学習心理学や発達心理学といった基礎領域の科目も含まれている。心理実習が将来に役立つという観点からは、これらの科目を選んだ場合に多くの記述が行われていることから、必ずしも心理職が活躍する現場だけでなく、より幅広い職場を念頭にいった学生から多くの記述が認められたことを示しているのかもしれない。

本研究では分散分析、重回帰分析といった分析において従属変数、または目的変数に、記述の文字数を用いた。これは心理実習への学生の認識を量的に分析するためにとった方策のひとつであったとはいえ、最適な方法であったかどうかには疑問が残ると言わざるを得ない。多くを記述すればそれがより、心理実習の将来について深く考えていたのか、また心理実習にかかわる科目について深く考えていたのかを意味するかは不明である。本研究でとった量的分析だけでなく、記述の内容の質的な分析を今後追加していくことも重要であると考えられる。

九州女子大学では、心理実習は2年次から開始される。したがって、すべての学生が施設実習を受けた後に、多くの基礎科目や実践科目を受講する。公認心理師カリキュラムにおいては基礎と実践の多くの科目が用意され、それらが全体として心理職の専門職を目指すことが目的とされる。また、臨床心理士のように大学院教育に限定せず、学部まで含めた6年間での教育を実施することの意味には、より充実した基礎教育や、基礎と実践へのつながりを促すことにあると考えられる。学生たちは、2年次の早い段階から実践を学び、続けて基礎を学び、さらに実習に戻り実践を学ぶというプロセスを経る。九州女子大学の公認心理師カリキュラムは心理実習という実践での学びを中心として基礎と実践の往還を実現し、心理専門教育の充実を図る試みを実施しているといえるだろう。

引用文献

- 堀匡・田中秀紀・願興寺礼子・森田美弥子 (2024). 学部公認心理師科目「心理実習」受講生の学びと成長のプロセスに関する研究. 公認心理師：実践と研究, 3, 10-17.
- 公認心理師カリキュラム等検討会 (2017). 報告書. <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyo/kyokushougai/hokenfukushibu-Kikakuka/0000169346.pdf> (2024年10月1日閲覧)
- 永田忍・林秀樹 (2022). 公認心理師志望学生の心理実習へのモチベーションに関する研究：学部学生の

実習での体験に関する調査を通して、就実教育実践研究, 15, 1—10.

永田忍・井芹聖文・林秀樹・堀田裕司・石原みちる (2022), 公認心理師養成大学における「心理実習」導入初年度の取り組み, 就実大学大学院教育学研究科紀要, 7, 29—44.

日本公認心理師養成機関連盟 (2022), 厚生労働省令和3年度 障害者総合福祉推進事業 公認心理師の養成に向けた各分野の 実習に関する調査報告書.

櫻井由美子・岩崎眞和・渡邊孝憲 (2021), 「心理実習」の授業のあり方について, 茨城キリスト教大学紀要(社会科学), 55, 107—116.

付録 心理実習に役立ったと回答された科目とその理由の一部

学年	心理実習に役立ったと考える科目	そう考える理由
3	心理アセスメント 福祉心理学	関連する分野の実習前に学習していたこともあり, 授業で学んだことも踏まえながら実習に参加することができたから。また, 心理アセスメントでは実際にテストを行って所見を作成するなどの経験ができたから。
3	心理学的支援法, 教育・学校心理学	心理学的支援法で学んだ支援の方法が実際に施設で行われていることもあり, その内容を理解することができたため。教育・学校心理学は, 学校を訪問した際にどのような効果を狙って対応しているかなどの前提知識が身につけていたため, 説明についていくことができたから。
3	心理学的支援法, 障害者・障害児心理学, 教育・学校心理学, 福祉心理学, 産業・組織心理学など	様々な分野の実習を受けるにあたって, 知識として授業で一度触れていることで情報が理解しやすかったり, 学んでいる中で持っていた, 思い描いていた想像と実際はどうだったのかなどを知ることが出来たと思います。
3	福祉心理学, 社会・集団・家族心理学, 発達心理学	私は, 児童福祉の分野に興味をもっていたので上記で述べた授業は, それらに関する授業であったからです。
2	心理学的支援法, 福祉心理学, 障害者障害児心理学, 心理的アセスメント,	現場のことを知れたり, 実習先で使われている治療法やカウンセリングの際に使われている技法などについて知ることができたから。
3	教育・学校心理学, 健康・医療心理学, 産業・組織心理学	それぞれ, 法律や制度が絡むお話が多かったため。事前の学習をしておかなければわからないこともあったので以上の授業が特に役に立ったと感じています。
3	心理演習	病院の実習で, 心理検査の結果をみて見立てを書く機会があったから。
3	福祉心理学, 心理演習, 障害者・障害児心理学	実習にあたっての直結的な学習ができていたと思うから。事前に現場における心理職の役割と技法について学べたことで, 実習で見ておくべきところや学ぶべきところなどが分かり, 実習に向けての心構えができた。
3	心理演習	やはり, 人と対面して話す際の留意点や話す際の座る位置, 目線や話し方など, お話を聞く際の立ち振る舞いを実践的に学べたので, 実習先での見学において, 職員の方々の動作に着目することができました。

3	心理学概論, 発達心理学, 知覚認知心理学, 障害者障害児心理学	実習の際に学んだ内容が生かされたからです。
2	教育・学校心理学, 感情・人格心理学, 発達心理学です。	スクールカウンセラーになる上でこの3講義の内容が特に勉強になり, 必要な知識を得られたと思ったからです。
2	心理学実験 I, II 心理学統計法	実際に実験をし, 結果をレポートにすることによって, 自分たちが学んでいることへの理解が深まったように感じます。また, 統計によって, 「心理」というあやふやなものがはっきりと目に見えるようになったのは, 大きな発見でした。
2	心理系の授業はどれも欠かせないですが, 特に心理的アセスメントが役に立ちました。	実際に使われる検査を学べたからです。
3	心理的アセスメント	面接や心理検査などを実践的に学び, その中でクライアントとの信頼関係を築きながら, 様々な視点から情報を得て支援することの重要性を学んだ。心理的アセスメントで学んだ支援者としての姿勢や関わり方が役立ったと感じた。
3	心理アセスメント	様々なアセスメントについて知っておくことで, 実習に行った際に出てきた単語の予習になり, 役に立ったから。
2	心理演習	具体的な場面を想定したロールプレイングを行うことで, 心理面接やカウンセリング技法を学び, そこで感じた気付きや難しさが, 実習に挑むうえでの, 課題や目標となったから。
2	福祉心理学, 教育・学校心理学	福祉心理学は具体的な施設や法律を学べるので, 教育・学校心理学はこれまで学んだことの復習も含まれており, 具体的な例もあるとこです。
3	臨床心理学概論	資料が見やすく後から復習しやすいからです。そして, 実際の現場で役に立つ知識を多く学んだと感じたからです。
2	心理的アセスメント, 心理学的支援法, 心理演習	実習先でバウムテストの解釈を行なったことがあったからです。先にどのような物か演習していたため, 学んでいてよかったと思いました。また, ほぼ全ての実習先で心理検査の話が出てくるため, 施設で行なわれる検査がどのようなものかイメージしやすかったからそう考えました。
2	心理学的支援法	施設で利用者の方と話すことがあり, どのようにお話するべきかが分からなかったのですが, 授業で学んでからどのようにお話をすべきかが分かったからです。
3	心理演習	検査の行い方や心理士としての話し方を演習を通して実践形式で学ぶことができたためそう思いました。
4	福祉心理学, 心理的アセスメント, 障がい者・障がい児心理学	現在の精神保健福祉法になった経緯にお話を聞いたとき, 福祉心理学で学習していたためより学びが深まった。また, 心理面接のことを学習したときには心理的アセスメントの知識が役に立った。障がい者・障がい児心理学では病院実習の際に認知症のお話を聞いたときにどんな種類や症状があるのかの知識があったためより学びが深まった。
4	発達心理学	他の心理学の場面でも発達の考えが大切になったりするから

4	発達心理学, 臨床心理学概論, 心理的アセスメント, 教育学 校心理学, 福祉心理学	各分野の基礎的な知識を学ぶことができ, 実習の事前学習をする際 に授業プリントを見直したことで各分野の特徴を改めて理解するこ とができたから。
3	心理演習	心理演習の授業では心理検査を行い実際に所見を書くといった課題 があった。その経験があったため, クリニックの実習で行ったバー ムテストの所見を書く課題ができたのではないかと感じている。
4	心理演習, 福祉心理学, 公認 心理師の職責など	心理演習は応用的で実際に色々な心理検査や面接がロールプレイで 学ぶことができました。また福祉心理学は自分の進みたい業界に通 じる勉強ができる授業でした。職責は公認心理師という仕事に就き たいと考えているとして, 現実的な部分を理解する上で大切だと感 じたからです。
2	発達心理学	発達障害というものを知れたから
4	発達心理学, 障害者・障害児 心理学, 臨床心理学概論, 福 祉心理学	授業で聞いたことのある単語や心理療法が実習中に出てきたりして いるから。
2	障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学では, 療育手帳やそれぞれの障害に対する支 援法などが学べて実習での講義に役立っていると感じています。
4	心理的アセスメント	心理的アセスメントでは, 架空の事例についてテグやバウムテスト を用いた所見を作成したことで, 実習先で紹介して頂く心理検査が 理解しやすくなりました。
2	健康・医療心理学, 障害者・ 障害児心理学	実習で医療福祉領域に行くことが多く, その際にこの授業で習った 基本的な知っておくべき知識が抑えられたから。
3	心理的支援法, 心理的アセス メント	カウンセリングのポイントやアセスメントの解釈を知れたから。
3	心理学概論 心理学実験 発 達心理学 健康医療心理学	授業では心理学の基礎知識が身についたと考えています。これらの 授業により実習での講義の内容を理解できたと思います。
2	教育心理学 心理学的アセス メント	心理学的支援の実際について学び, 実習の際に支援の実際と結びつ けて考えられたと思います。
2	障害者障害児心理学 知覚認 知心理学 共生社会を生きる 健康の科学	要支援者に対する社会的なレッテルと自身の偏見に気づきることが でき, 授業を受ける前に比べて偏りなく要支援者についての話を聞 くことができたと思います。
2	発達心理学, 学習・言語心理学, 臨床心理学, 心理学的支援法, 障害者・障害児心理学, 心理 的アセスメント, 教育・学校 心理学, 心理演習, 精神疾患 とその治療, 人体の構造と機 能及び疾病, 福祉心理学, 産業・ 組織心理学, 司法・犯罪心理学, 公認心理師の職責, 関係行政 論	どの授業も, 各分野・施設についての理解を深める為に知っておく べき物事について学ぶことができたから。公認心理師の職責につい ては, 4年生の前期にあったことで, これまでの実習についての振 り返りもできて良かったと思います。

2	心理学概論, 障害者・障害児心理学, 心理的アセスメント	臨床心理学の知識や障害者・障害児に関する知識を知り, 心理検査を学ぶことができたからです。私は主に福祉分野の児童相談所や児童養護施設などに興味があったため, 福祉心理学がとても勉強になったと考える。児童養護施設や児童相談所に入所している原因や理由, 施設の役割などを初めに勉強することにより子供たちへの関わり方も考えることができたから。
4	すべての授業が役に立つ授業でしたが, 心理学概論や心理学的支援法, 感情人格心理学, 障害者心理学です。	実際に実習を行う中で役に立ったと思ったからです。心理学支援法は利用者さんや子供たちと話す際に凄く役に立ちました。
2	言語学概論 心理学概論 発達心理学 健康・医療心理学 障害者・障害児心理学 心理学的支援法 学習・言語心理学 臨床心理学概論 感情・人格心理学 心理的アセスメント 教育・学校心理学 福祉心理学を含めた心理学に関する授業すべてです。	授業で習ったことが実際に心理実習で話されたときに出てくることが多くあったように感じたからです。
2	心理学概論, 心理学的支援法, 臨床心理学概論, 障害者・障害児心理学	基礎的な部分が学べたり, 実習先でのお話で出てくる用語について説明して下さったりするからです。
3	臨床心理学概論, 発達心理学, 障害者・障害児心理学など	心理学の基礎知識や, 実習中にでてきた症状の名前・実験方法を習ったから。基礎知識として覚えておけたので, 実習中に新しい知識を吸収できた。
3	障害者・障害児心理学, 発達心理学	障害のある方・子どもの心理的な支援の仕方や精神障害のある方との向き合い方などを勉強し, 実際の実習で関わらせていただいた際に, 教わった関わり方を意識し, どのように支援をしていけば良いか考えることができたからです。
2	公認心理師の職責, 精神疾患とその治療, 心理演習	公認心理師の職責では, 主に心理士としての責任や考え方, 自分との向き合い方などを学び, 「心理士という職業についている人間」という新しい視点を持って実習に望むことが出来ました。精神疾患とその治療では, 様々な障害について事例を元に学ぶことが出来, 実際の現場で心理士が行う対応が理解しやすかったです。心理演習では, 話の聞き方や質問の仕方などを実践的に学ぶことができ, 実習先で人と接する際に大変役に立ちました。
2	心理的アセスメント, 障害者・障害児心理学, 心理学的支援法, 福祉心理学, 発達心理学, 健康・医療心理学, 人体の構造と機能及び疾病	実習では, 実際に行う心理検査や作業・行動療法などを教えていただくことが多く, 授業のなかでアセスメント方法や検査の点数の意味を学んだうえでの実習になったので, より理解を深めることができたからです。また, 子どもへの支援を行っている実習先では, 発達についての理解を求められることが多く, 複数の授業で発達について学んでいたのに役に立ったと思います。人体の構造と機能及び疾患の講義では, 疾患の状態やその看護方法, 薬の効果などを学べて, 医療現場での多職種連携に必要な知識の部分部分を学びました。

2	心理学概論と心理的アセスメントが役に立っていると思います。	心理学概論は、心理学についての基礎知識を学べたということからです。心理的アセスメントは、実習先にの患者さまの資料にある所見を見たときに、授業で学んだ検査の結果が記載されていたためです。
3	心の科学、心理学概論、臨床心理学概論、心理学的支援法、司法・犯罪心理学	心理実習を行う前に必要不可欠な基礎的学習を得ることができることと、対人援助の現場において留意することを学ぶことができるため役立つと考えました。
2	心理学概論、発達心理学、健康・医療心理学、知覚心理学Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学概論、コミュニケーション概論、心理学的支援法、心理学実験、心理学統計法、障害者・障害児心理学、感情・人格心理学、心理的アセスメント、心理演習、福祉心理学	実習を受けている際に授業で学んだと覚えることが数多くあったから。
2	福祉心理学、発達心理学	施設の方が話される講話などの中で、必要最低限の知識を得られた授業だと感じたからです。
2	臨床心理学概論	先生の実際の現場での経験談を聞くことができたから
2	福祉心理学、障害者・障害児心理学	周りの方と比べて実習参加経験が乏しいため、まだ二つの実習にしか参加できていないが、そのうちの1か所が特別支援学校で、障害児へのある程度の知識を持って参加できたことで、障害児への支援の方法など講話がよりわかりやすく感じたため。
4	障害者・障害児心理学、心理学的アセスメント、臨床心理学概論	検査がどんなものなのかやそれぞれの症状などを知ることが出来たから

※具体的な施設名等は削除するなどの変更を加えた。また、紙面の都合上、一部の回答を抜粋して掲載した。

謝辞

本調査にご協力くださった学生、心理実習の実習を受け入れてくださっている施設の指導者・職員・関係者の方に厚く感謝申し上げます。

An exploratory study of the certified public psychologist curriculum and career education in practicum in clinical psychology

Tomohiro NABETA

Department of Psychology and Culture, Kyushu Women's University

1-1, Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi 807-8586, Japan

Abstract

Kyushu Women's University started a curriculum for certified public psychologists and began offering psychological training. Psychological practice is one of the subjects in the certified public psychologist curriculum, in which students learn about psychological work, professional ethics, responsibilities, etc., by visiting facilities outside the university. In this study, we asked students from the second year to the fourth year to answer in writing which subjects were useful in the psychological training and how they thought the training would be useful in the future. The results showed that there was no change in the number of subjects that the second-year students and third-year students found useful in the psychological training, and that students aiming for a career in psychology recognized the importance of advanced subjects in the future, while students aiming for a job in a general company recognized the importance of basic subjects. These results suggest that even the same psychology training is perceived and learned in different ways depending on the students' desired career path.